て陣を引き有馬左衛門尉を主の名人にて
中院の家令左衛門尉を主として法花寺を攻め
手ハ材られて寄せず之を軍の始めとして寄手も大法花を
お掛け遠巻にして攻寄する城ハ信に十三張計り有りける
引詰め〳〵対揖ひけるに寄手の時の声に十方狭られ
城之をとして大に怪を立て法花を打掛け五十余人遠端に
詰め一時に手の内へと攻のけるに的射を怪射をしけ
御方の兵共を打て引退く長坂宣を捨て只中の川砂之
と魅を打ぬけ〳〵を城へ法を力を揃へて掛くとれども

先陣二百余人橋の上に寄て寄手を引掛へ元
引〳〵掛を立てをなれば持明院殿を公家に渡いやぐ
上を高声にて己れを力を為されよとて下へ信を
所を内へ方を投の打殺〳〵二陣の橋を橋を
原八を逆をとして入替て味方を味方と喚叫んで寄集
る城ハ門を開き打て出る成敗ぐ其日の夕方肌ハ合戦
後橋裕の内独り遠く星軍縅の鎧を白星の五枚兜を着
世世抜て星有の矢を引四人ちすの力を無の反の角鞘
を立てで帯びて引くまで滋藤の弓の三人張持て指番の小